

第2回ワーキングの主な意見と対応について

資料2

分類	委員意見	対応等	原案
河川 下水道 対策	新湊川で貯留施設は設置できるのか。天王ダムの横の小部トンネルの所に窪地があるのでダムを作れないか？	・新湊川はこれまでの改修により一定の治水安全度を有しており、ダム等川の水位を下げるための貯留施設を緊急に整備する予定はない。 ・内水被害を低減するための施設として県営住宅や公共施設での浸透・貯留施設等の設置を検討したい。	・P41
	水を貯めると臭気が問題となるので、スムーズに水を流す方法を考えて欲しい。	・例えば、県営住宅では駐車場を利用して雨水を一時貯留する考えであるが、最大水深は10cm程度で、数時間で排水するため、貯留水が悪臭を放つことは無いと考えている。 また、校庭貯留においても、H26.8の台風11号の阪神昆陽高校の実績では、雨が止んでから約6時間で排水が完了しており、貯留時間はごく短いことが確認されている。	・P50
流域 対策	有馬街道の斜面が崩れて天王谷川に流れてくると怖い。	・六甲山系は昭和13年の阪神大水害以降、国、県により多く川や山の対策を実施している。「六甲山系における土砂・流木の流出抑制対策」として記載。今後も計画的に対策を進める。	・P61
	住吉川では、水を流すことは安心だが、流域の7割が急傾斜地なので山崩れが心配。		
	山が崩れなかったら川はあふれることはないと思っている。山を守って欲しい。	・土砂災害特別警戒区域に指定されれば、家屋建築等には一定の要件が必要となる。これは土砂流出等の被害を少なくする目的のものであり、これから神戸市内でも指定を進めていく。 なお、土砂災害警戒区域は既に指定し、ホームページ等で周知に努めており、これらを把握し自ら避難行動をとることも重要である。	-
六甲の山麓で家を建てる許可は下りるのか？自分の家は自分で守る。国や県に任せないで自己責任を確立させるべき。			
減災 対策	小中学校で防災教育を行うべき。	・防災福祉コミュニティ等からの依頼を受けて、小学生を対象とした貯留・浸透のジオラマ模型を使った出前講座を実施することを記載。 ・水防体制の強化のためには、学校との連携が不可欠であることを記載。	・P75 ・P90
	昼間は地域に健常者がいない。中学生が頼りになる。今の親は自分の子のイベントが終わったら帰ってしまう。意識が浅い。		
	小学生の時は親もPTAに参加するが、中学生になると来なくなる。	・学校も、連携の仕方次第で、協力してくれる(県民構成員)。 ・地域から、登下校の見回りや清掃などの保護者から喜ばれる活動と合わせて防災訓練を盛り込んだ事業計画を学校に提出している。防災訓練は「学校との協働が不可欠」と記述している(県民構成員)。	-
	小学校にお願いに行ってもスケジュールに余裕がない。学校の協力が必要である。		
	要支援者を含め、避難所を近隣に知らせる必要がある。		
	防災福祉コミュニティは、被害の大きかった所は熱心だが、メンバーが固定し参加する人が限られている。	・手づくりハザードマップ作成を推進する方針であるが、作成にあたっては多くの地域住民が参加する場となるよう協力してほしい。	・P95
	小学生が中心になって防犯の手づくりハザードマップを作成している。	・防犯マップには防災にも共通する情報が含まれていると思われるので、防犯マップをベースとして手づくりハザードマップの作成を進めてほしい。	・P95
	災害に対しては避難が大事。	・本計画の「そなえる」対策を推進していくことが減災に繋がると考えている。	-
	防災ジュニアチームを神戸で一番に作った。毎月1回訓練している。阪神淡路大震災で父と妹を同時になくした子が、「この訓練をやっていたら妹だけでも助けられた」と話していた。	・隣人同士の助け合いの精神は重要と考える。その上で、防災訓練や手づくりハザードマップ作成等の「そなえる」対策を進めることが減災に繋がると考えている。 ・防災福祉コミュニティ内の住民が互いに連携して、より充実した訓練等を実施していくことを記載。	・P91
	訓練していなくても阪神淡路大震災の時はみんなで助け合った。防災活動の根底は隣人同士の助け合いにつなげることが重要。		